

第1回 千川・タイム 回答



問1

自転車用ヘルメットの正しいかぶり方は、どれでしょう？

ヘルメットをかぶるときは、次のことに気をつけましょう。

- 1 自分の頭の大きさに合ったものを選び、または、アジャスターで大きさを調整する
- 2 あごひもは、あごとひもとの間に指が1本入るくらいに調整をする
- 3 水平になるように、おでこまでしっかりと深くかぶる
- 4 ヘルメットをかぶったときに、グラグラと動かない

交通事故で亡くなられた方の多くが頭を怪我して亡くなられています。ヘルメットは、交通事故や転倒などから大切な頭を守ってくれるものですから、面倒と思わずに、必ずヘルメットをかぶりましょう。



② (○)
あごとひもとの間に指が1本入るくらいに調整をして、かぶる。

問2

自転車の交通ルールとは…？()内の正しいと思うものに○をつけましょう。

自転車は『軽車両』といって、(人・車)の仲間です。

このため、道路標識は(人・車)に対するものに従い、交通ルールを守らなければなりません。

小さな故障でも、大きな事故に(つながります・つながりません)。

安全な自転車に乗るためには、自転車の故障がわかるように、主要部分の名称や役割を知り、簡単な点検・整備や修理ができるようになることや、自転車安全整備店で点検・整備や修理をしてもらうことが(必要です・必要ありません)。

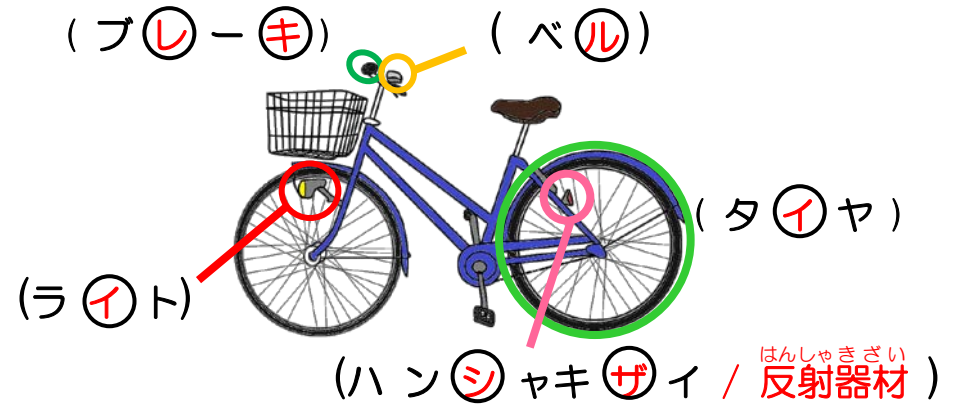
交通事故にあうと、悪いことをた気持ちになってしまったり、どうしてよいかわからず、何も言わずにその場から立ち去ってしまう人がいます。

交通事故の場合は(必ず・怪我をしたときだけ)、(その場で・家で)110番通報し、警察に交通事故の届出をし、(必ず・怪我をしたときだけ)家族にも事故のことを話しましょう。

相手には(必ず・怪我をしたときだけ)氏名と連絡先を伝えましょう。
相手が怪我をしていて、道路上で動けないときや、後から来た車などがさらに交通事故を起こしてしまうようなときは、すぐに周りの人を呼ぶなどしましょう。

問3

自転車に乗る前に行う点検について、点検箇所はどこでしょう？



ブレーキ： ブレーキは自転車を手で押しながら、左右別々にブレーキをかけて、それぞれのブレーキが効くか確かめましょう。

ブレーキの遊びが大きすぎたり、小さすぎたりしないよう調整しましょう。

ベル： よく鳴るか、ハンドルから手を離さなくても鳴らせる位置にあるか確かめましょう。

ベル(警音器)は、前を歩く歩行者を避けるために鳴らすのではなく、見通しの悪い場所などで、危険を知らせるためやむを得ない場合などに使用しましょう。

タイヤ： 適度に空気が入っているか(両手の親指で押し)、少しへこむくらいがちょうどよい、溝がすり減りすぎているか確かめましょう。

ライト： 電球が切れていないか、照射方向は正しいか、夜間において(神奈川県では前方5メートルの)障害物等を確認することができる光度であるかなど確かめましょう。

反射器材： 割れていたり、汚れていないか、後方(100m)からライトをあてたとき、きちんと反射するかなど確かめましょう。